



田中康夫

今月の愛いゴト

移民の受け入れ政策から、消費増税と所得格差、脱成長社会、復興公営住宅の現状まで。

東京・渋谷にある「パン・オ・スリール」。

「ソトコト」の表紙になったNPOパンを焼いたパン屋さんで、白神こだま酵母からつくる手づくりパンを食べ、店内のテーブル席で呆談を始めた田中・浅田氏。格差社会にダメージを与える消費税の味も噛み締めながら。

photographs by Hiroshi Takaoka text by Kentaro Matsui

浅田彰

憂

憂国呆談

毎年20万人の移民を受け入れ？ 格差社会はますます広がる。

田中 毎年20万人の移民受け入れを実施すべきと政府の経済財政諮問会議に設けた専門調査会で検討を始めた。日本の人口は2

110年に4286万人まで減るとの国立社会保障・人口問題研究所の予測を「根拠」にね。いずれ帰国するのを前提としている外国人労働者と違って、移民というのは参政権や国籍の付与も想定しているから、植民地統治の歴史を抱えるイギリスもフランスも受け入れる上での条件を良くも悪くも整備してきた。それでもトラブルが絶えないのに日本はまったく準備せず、万世一系と叫んでいたはずの面々は、労働力が欲しいし、人口減少も防ぎたいからと年間20万人を言い出した。なのに靖国参拝を支持する連中は怒りもしない。そもそも司馬遼太郎が描いた日清・日露の時代、日本の人口は5000万人にも満たない。これからはその規模で真の富国裕民を求めようと唱えるべきなのにね。北欧型の社会保障の充実や、農業を維持しつつ、モードに象徴される世界に冠たるブランドで地歩を固めるイタリヤやフランスのような5000万〜6000万人規模の国に舵を切つてこそ、日本を取り戻すって話でしょ。

浅田 長期的には脱成長路線を考えるとしても、短中期的には人口減少と少子高齢化が進むなか移民の受け入れが必要になる。ただ、安倍政権はそういう新自由主義路線をとる一方で、ナショナリズムの立場から日本のアイデンティティを強調もするわけで、矛盾してるんだよ。

田中 出生率向上なら事実婚ⅡPACSの法的整備が先決でしょ。その先輩格で合計

特殊出生率が欧州トップのフランスですら2・01。なのに1・41の日本は今後、移民政策で2・07に急増し、100年後も1億人を維持可能と高言する大本営発表って呆れるしかない。

その一方で配偶者控除制度を廃止すれば、専業主婦の女性も社会進出するとか言い出したけど、これこそ「ナショナリズム」の連中は専業主婦も一つの文化や伝統で、育児こそ大切な仕事だから制度廃止に断固反対、と言うべきでしょ。津田梅子の時代から活躍している女性はいいるのだから。

浅田 現実的には日本は女性の社会進出が遅れてるんでどんどん進める必要があるけれど、保守的ナショナリズムの立場からすれば、それこそNHK経営委員の長谷川三千子のように男女雇用機会均等法に反対するってことになるはずなんだ。むしろ僕はその種の反動には反対けどね。

田中 プラス・マイナスの両面をインフォームドして、納得したら多数決という流れならばともかく、そういう議論もいまま、移民も入れます、配偶者控除も廃止しなすってのはあり得ない。

浅田 そう、「開国リベラリズム」で行くのか「鎖国ナショナリズム」で行くのか、きちんと議論すべきなんで、新自由主義的に開国しながらナショナリズムを謳うってのは無理がある。

田中 アメリカは南部ほど低所得で子どもの数が多いという統計がハフポストに載っていた。つまり、収入の高い家庭の上位25パーセントが大学生の親の8割を占めていて、下位25パーセントの出身は2、

3パーセントしかない。2012年までの3年間に全米で増えた所得の95パーセントは上位1パーセントの富裕層が得ている。それと同じような二極化が日本でも起き始めている。

10年ほど前、歴史学者のアーノルド・トインビーの孫娘でガーディアン紙の記者だったポリー・トインビーが「ハードワークは低賃金で働くということ」という本を出したけど、マーガレット・サッチャー首相の行き過ぎた政治を変えると期待されたトニー・ブレア首相も新自由主義を踏襲し、もともとが階層社会だったイギリスは良い方向には改善されずにいた。で、彼女は取材でそうした「ゲッター」状態な地域に住み、周辺の住人と同様に低賃金の仕事に通う。そこでわ

かったのは、優しい彼らは自分だけだからから抜け出すと残る人が可哀相と思つて、その状況に安住してしまうと。日本でもイオンモールに代表される大都市圏の郊外や地方のショッピングセンターで過ごしているマイルドヤンキーと呼ばれる階層の危機感のなさが、ここぶる現在の政治や経済の指導層にとつても都合がよい状況の展開を招いている。

浅田 うん、中産階級が解体されて、上と下でどんどん格差が開いてるんだけど、妙に危機感が薄いんだよね。下流のヤンキーも、一昔前は橋下徹的な武闘派寄りだったのに、いまや地元でまったりなごんでられれば十分だ、と。コンビニ社会で最低限の衣食住は保障されてるし、去勢されて野心つてもものを持たなくなってるからそれで満足なのかもしれないね。

間違つた野心を抱いて小保方晴子みたい

になつちゃうのも問題だけど（苦笑）。

田中 まったくいやはやな小保方だけど、トカゲの尻尾切りで逃げ切る理化学研究所も劣化の極み。独立行政法人化という羊頭狗肉な改革も四半期決算の企業と同じ成果主義だけをもたらしてしまった。全国の国立大学も文科省や経産省あたりの官僚が副学長とかに2、3年腰かける仕組みになつて、短期的成果と大過ない運営を求める2つのマイナスイメージが目立つ。

浅田 昔は、アカデミックな論文はピア・レビュー（同僚研究者のチェック）をへて学会誌に公開するものだった。ところが今は、とくにバイオのように応用と直結した部門だと、先に特許を申請し、その後で慌てて論文を書く、つまり先にツバをつけたい後から辻褄を合わせることも多いから、STAP細胞に関する小保方論文のようにきちんと辻褄が合わせられないケースも出てくるわけだ。京都大学のiPS細胞研究が脚光を浴びるなか、理研のES細胞研究が立ち遅れて予算面でも冷遇されないよう焦つて発表したってこともあるかもしれない。むしろ小保方晴子自身の問題が大きいけど、市場万能主義の中で科学も歪められてるってことじゃないかな。

こうなればチェック機構を強化するほかない。たとえばアメリカでは、博士号をもつた優秀な研究者をたくさん雇つて、研究助成の申請を審査したり、結果を評価したりしてる。日本もそういうシステムを充実させるしかないかも……。

むしろ科学研究でも応用に結びつきにくい部分はまた違うけどね。最近、宇宙創成のビッグバンときの重力波の観測から、いわゆるインフレーション理論が正しいらしいと言われるようになった。まさに人類



の知性の極限にかかわる研究だけで、だからといって一銭の得にもならない……。とはいえ、素粒子論でも巨大な加速器をつくるような理想主義だけじゃやっていけないのかもしれないね。

脱成長、シェア、相互通行の流通。 新たな経済社会のヴィジョンとは？

浅田 話が逸れちゃったけど、所得格差の話に戻れば、例えば、全国放送の地上波テレビ番組の視聴者は、いまや年収200万円(300万円ぐらいの層が中心で(老人ホームなんか計算に入れての話だけど)、従来型の高級グルメ番組じゃなく安くてもまいB級グルメ番組をやると視聴率が上がるらしい。他方、有料衛星放送のWOWOWは最新の海外ドラマを放送したりして、加入者は年収800万円ぐらいの層が中心だとか。そうやって文化的にも所得で分離されていくってのは、ちょっと怖い気がする。

田中 今回の消費増税も、一向に生活に影響しない層と極めて影響を受ける層に分かれるから、郊外型のスーパーでもPB商品をさらに段階分けしないといけなくなるって話だ。

浅田 そういう状況にあつて、マルクス主義のような立場を取らずとも、現実には資本主義が限界に近づいてるって議論がいろいろ出てきてるね。たとえばエコノミストの水野和夫が利子率≠利潤率の長期的なトレンドを踏まえて言うように、経済がグローバル化したってことはフロンティアがなくなつたってことなんで、ITを駆使して金融化を進めたり、新興国でバブルをつくったりして、誤魔化してはきたものの、いよ

いよ限界にきてる、利子率がゼロに近づくとことは資本主義が終焉に近づくとことなんだ、と。

他方、ジェレミー・リフキンが新著『限界費用ゼロの社会』で言うように、1台目のパソコンをつくるのは大変だけど、すでに1億台のパソコンが普及してる状態で次の1台をつくる限界費用はゼロに近づいており、ネットにつなげば音楽でも何でもほぼ無料でシェアできるようになってる(著作権の問題もあるけれど)。クルマにこだわる人は別として、100人のコミュニティに10台のクルマがあれば、ネットで利用スケジューリングが可能になる。そうやって限りなくゼロに近い限界費用でモノや情報やサービスをシェアしていける社会になってきた。これまた資本主義の終焉を予告するものだ、と。

水野にせよリフキンにせよ、議論はかなり荒っぽいし、脱資本主義社会がいかに機能するのかがはっきりしないところも多いけど、

何度も言うとおりの、日本はもう輸入国なんだから、 円安にしたって貿易赤字が増えるばかり。(浅田)

田中康夫

たなか・やすお●1956年東京都生まれ。
一橋大学法学部卒業。大学在学中に『なんとなく、クリスタル』で文藝賞受賞。
長野県知事、参議院議員、衆議院議員を歴任。

れど、現場からそういう議論がいろいろ出てきてるのは面白いことだと思うね。

田中 これからは演繹法でなく帰納法へと発想転換せよと知事時代に言うのと、真面目に勉強してきた職員ほどそれは違うと反論した。演繹法のほうがより普遍的だと。でも違うんだよね。頭でっかちな人間が作りたいびつな法律のもとで、前例がないとか、規則上できないとか、演繹法ほど机上の空論な袋小路に入っていく。普通の人たちが願っている社会へとブレックスルするのが本来のエリートに課せられたミッションで、それが帰納法。供給側の都合に基づく一方通行の配給は戦争の時代を招いてしまう。消費側の希望に根ざした相互通行の流通でなければいけない。

ほしいものをほしい人がほしいときにほしいだけ。でも、そうした社会を目指したセゾンの堤清二もダイエーの中内功も最後は、消費者が見えなくなつてしまつたと嘆いた。消費者の側も便利さに安住するだけでなく、そのありがたみを噛み締めて共に

育っていく意欲を持たないと実は流通という相互通行は成り立たない。で、消費者が怠惰で強欲なだけだと、流通から配給へと再び戻ってしまいます。

浅田 巨大流通グループは、コンビニを除けば、郊外の量販店のような形でやっていくほかない半面、都市でも田舎でも、住民のネットワークでモノや情報やサービスを生産する仕組みも少しずつ広がってきてる。独居老人の家まで食事を届けるとか、かわりにしばらく子どもの見守りを頼むとか。そういうのはGDPに算入されなくとも生活の質の向上につながるからね。

田中 その意味では従来、使われていた贈与と交換という言葉も新しい認識で捉え直すべきなんだろう。マスプロダクトな部分は今後も必要にせよ。でも、そうした目指すべき社会を提示しなければいけない政治家や批評家が、提示できないでいる、あるいは、提示する人間がいても聞こうともしないところの問題。

浅田 そう、政治家はいかに景気をよくするかって話じゃない。しかも、日本はすでに輸入国だったのに、円安で輸出を増やそうって話ばかり。たしかに、脱成長ってのは原理的に資本主義と相容れない話なんだけど、対症療法を大きく超えた新たな経済社会のヴィジョンが必要とされてるけど、その萌芽はいろんなところで出てきつつあるわけだからね。逆に、輸出で稼いで再び成長を促すのは明らかにもう無理なんだし。田中 なんでそれがわかんないのかね？浅田 わかんない(笑)。たとえばクルマはいまだに輸出産業の花形だけど、日本だけじゃなく先進国ではだいたい若者のクルマ離れが顕著になってきてる。ハイブリッド車や電気自動車も、ITによる自動運転



も本格化してきたけれど、いまの若者は、なんとでも最新のクルマを所有するっていうより、そういうのを効率的にシェアできればいいと思ってるんじゃないかな。最新のパソコンを所有していなくても、何らかの形でネットに接続さえできればいいように。

田中 カーナビもなかった『なんくり』の時代は、目的地までの道順を地図で事前に頭に入れながら運転して、自分でテープに入れたAORの音楽をかけて、相手との会話も盛り上げるスタイルがデートの基本だったよね。今は渋滞で時間も読めないし、電車のほうが早くて楽じゃね、とカッパルが会話もせずに車内でスマホをいじってる世界。

浅田 いずれにせよ、クルマや家電製品が大量に需要される時代は終わつつあるんで、そういう一部の輸出産業を円安によって助けるアベノミクスは時代錯誤。むしろ企業の業績がよくなり、賃金上がるっていう循環が動き出せばいいけど、タテマエ上は自由主義経済であるにもかかわらず政府の要請で一部の大企業やベンチャー企業だけが賃金を上げ、それで「アベノミクス」の成果だなんて言ってる光景は、異様だよ。どのみち4月からの消費税で景気が落ち込んでそれどころじゃなくなるのは確実だけだね。

田中 所得が増えても貯蓄に回すんだからね。でも、ジャネット・イエレンFRB議長とも一線を画す日本の金融政策はどうなんだろう？

浅田 FRBは景気対策を続けながらも長期的には量的緩和からの出口を探ってるんで、日本だけが「異次元」の緩和を続ければ円安に誘導はできるよ。だけど、何度も

これから心は心の復興だと言われたって、仕事も家もなくて何が心の復興だよと当事者は思ってるよね。(田中)

言うとおりに、日本はもう輸入国なんだから、円安にしたって貿易赤字が増えるばかり。

田中 円安がいいなんて誰も思っていないのね。それにしても「給料の上がりし春は八重桜」とはね。春と八重桜の結び手の「季重ね」に、給料上がり「し」と「直接経験過去」で私の給料が上がった春を詠って、しかも金銭の全体的な平均や水準を意味する「賃金」でなく個人個人の所得としての金銭を指す「給料」をあえて用いて「字余り」とした、新宿御苑の桜を見る会での安倍晋三首相の一句には驚いた。

東日本大震災から3年。新たなエネルギー対策は？

田中 東日本大震災から3年が経っても、岩手、宮城、福島復興公営住宅は計画戸数のたった3・3パーセントしか完成していない。予定戸数が2万8621戸で、完成したのが935戸。阪神淡路のボランティアを行っていたときに感じたのは、被災地での衣食住というのは意欲の“意”、職



業の“職”、そして、住まいの“住”だと。生活する意欲を持つには職業と住居があつてこそ。意欲の“意”は同時に医療福祉の

“医”でもあるべき。これからは心の復興だと言われたって、仕事も家もなくて何が心の復興だよと当事者は思ってるよね。高線量だった田村市の都路地区では避難指示が解除されても、帰還した住民は半数に満たない。内閣府原子力被災者生活支援チームが新型の個人線量計を使った被曝線量の結果を公表しなかったのも問題で、こうした隠蔽はいつか大破綻する。

浅田 被曝線量の測定値がインチキだつてことがどんどん明らかになってきている。とにかく前々から言ってるように、帰還が難しい地域の住民は、別の地域に集団移住するなりしなきゃ長期的な展望が持てないんで、いつか帰れると言われながらいつまで待たされるのかもわからないんじゃないか。生殺しだよ。復興が進んでるって言ったって、巨大堤防をはじめとするインフラ建設と、住民のためと称して建設業者がバカ高

浅田 彰

あさだ・あきら ●1957年兵庫県生まれ。
京都大学大学院経済学研究科博士課程中退。京都造形芸術大学教授。
83年に出版されたデビュー作『構造と力—記号論を超えて』はベストセラーに。

